銀座ヶ丘六丁目

銀座に丘をつくるようにランドスケープとしての建築を提案する。

1. 商業の街、それを支える水平な都市体験

国土地理院デジタル標高地形図

「銀ぶら」という言葉が示すように、銀座は歩いて楽しむことができる商業の都市だ。日本には珍しくスカイラインの揃った街並みを持つこと、毎週末行われる歩行者天国による街路空間のにぎわい、などが銀座の都市としての魅力である。

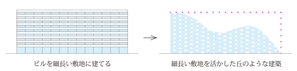
一部を埋立てることで作られた土地である銀座には、地形はほぼ存在せず、商業ビルの内部でもエスカレーターやエレベーターといった機械によって昇降が行われるため、人々による銀座の経験は、水平な移動が大幅を占めている。

2. 銀座煉瓦街という歴史、煉瓦の再利用

東京銀座裏路煉瓦石造真図一歌川国輝

銀座は明治５年、銀座大火で焼け野原になった。復興計画の際には都市の不燃化を目指し、煉瓦造りによって街並みを形成することを決めた。新橋駅から近いこともあいまって、外国人のための日本の玄関口として、銀座煉瓦街を計画した。関東大震災によって壊滅したが、当時は日本初の西洋流都市計画であり、当時の街区割りは、現在の銀座の魅力のひとつである美しい街区のもとになっている。震災時に瓦礫となった煉瓦は、品川区の戸越銀座の舗装材として再利用された。

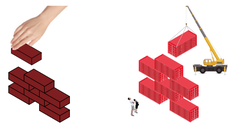
3. 銀座に丘をつくる



細長い特徴的な敷地に対して、なだらかな丘のような建築をつくる。煉瓦を積むようにコンテナを積むことで、階段状の形態を生成する。古くて耐用年数の長い煉瓦をイメージさせるような工法によって、流通の象徴であるコンテナを積んでいき丘をつくることで、古くて新しい銀座のランドマークを提案する。この建築は、水平移動に加えて新しい銀座の経験を生み出しながら、まるで銀座に新しくできた地形のように永続的な存在となる。

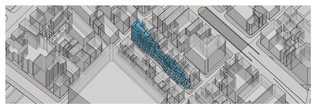
4. 建築について

4-1. つくりかた：煉瓦を積むように



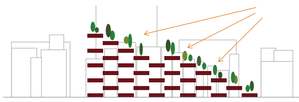
煉瓦を有孔積みするように、隙間を空けながら海洋コンテナを積んでいくことで、丘のようなランドスケープをつくっていく。隙間はテラスやオープンスペースとして機能すると同時に、内部と外部をつなぐ開口部としても機能する。

4-2. 平面：街路にたいしてひだをつくる



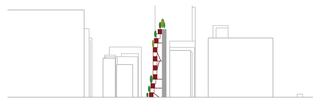
地上にオープンスペースをつくるように、くぼみを持った平面とする。高さが上がるに従ってセットバックしながら、外部にテラス空間をつくるように設計する。地上を開放的に使うことが多い銀座の新しい公共的空間となる。階段状の空間は地上から連続して、ステージや客席としても機能する。

4-3. 立面：南側斜面の階段型屋上庭園



階段状に積まれたコンテナによって形成される丘のようなスカイラインには植樹をすることによって階段型の屋上庭園になる。建築全体の構成は南側に低くなるようにコンテナを積むことで、屋上庭園は南側斜面とし、日射を豊富に手に入れると同時に、周辺の建物や道路にも影をあまり落とさないようにする。

4-4. 断面：内部の洞窟のようなアトリウム

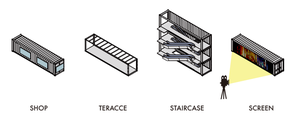


階段状に積まれたコンテナは外部では屋上庭園を形成しながら、その内部は小さな開口部をいくつも持つ、洞窟のような空間になる。エレベーターや階段、トイレなどのコアは隣地境界線の側に集約（グレー部分）させて、ファサードとコアの間に魅力的な洞窟のようなアトリウム空間を作り出す。

4-5. 煉瓦のように再利用されるコンテナ

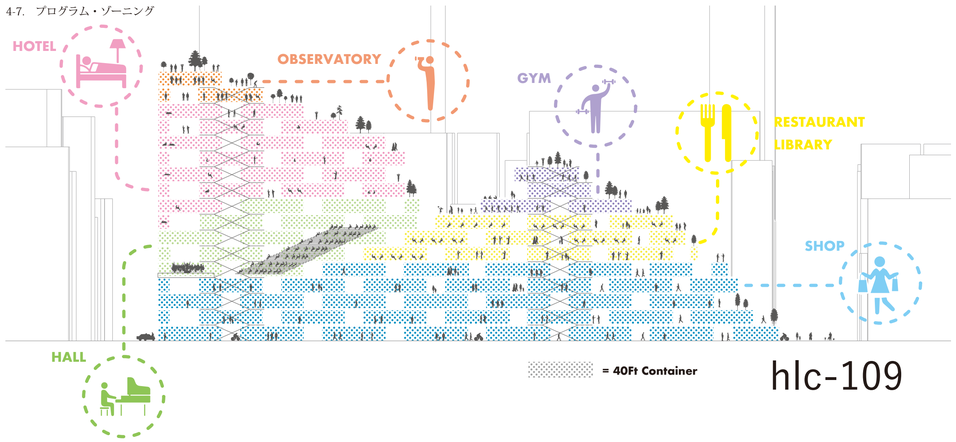
近年、コンテナを利用した建築事例は国内外でみることができ、耐震や構造の面でも十分に実現可能性のある手法である。銀座煉瓦街の瓦礫を再利用したように、港に多く残留しているコンテナを利用することでコストを抑える。

4-6. コンテナの汎用性



開口部を開けたり、フレームだけにしたり、とさまざまな利用方法があるコンテナ。小さなピースの集合により構成される建築はメディアとの相性が良く、プロジェクションマッピングのスクリーンや広告の看板として機能する。

4-7. プログラム・ゾーニング



hlc-109